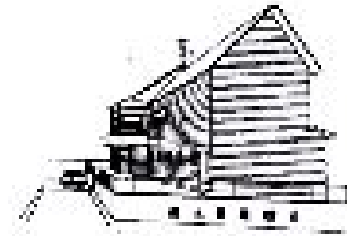


<今朝の聖書から>

“権威ある教え”と聖書が語っている、教えについて、しばらく学びましたが、イエス様は“わざ”も行われました。遺品といえるようなものは何一つ残されなかった主は、人に“教え”を残され、歴史の中に“わざ”を残されました。この歴史の出来事こそ、私たちに与えられた神様の啓示なのです。この歴史と、聖霊降臨以来、私達とともに進む御霊の働きによって、私たちは主を知ろうと努めるのです。今日はイエス様の記録である“わざ”から学びます。主の救いを信じ救われたことに確信を持つ信仰者でも、奇跡となると“それは現実的じゃない”と思ってしまうのです。“海の上を歩かれた(マルコ 6:48)”などは、本当は嘘で、岸边か棧橋のようなところを歩かれたのだと、私たちの理解のできる場所で解釈しようとする。理性的であろうとする我々に、そして理性的になろうとすること自体よいことですが、まるで信仰者に挑戦しているかのように思えることもあります。また“偽キリスト(マルコ 13:22)”がしるしと奇跡を行うとも、聖書は語っています。私たちは、まず奇跡を信じるころから出発します。聖書の記述をなんとか説明しようとするのは大いによいことですが、奇跡ではなかったと言っても、マリヤがみごもった事や、復活をなんとか説明しようとした瞬間に、聖書は神の出来ごとではなくなってしまう。奇跡という時、それは魔術的な手品師が行うものではなく、“救い”に結びついていることを思い出しましょう。福音書のかなりの部分が、奇跡について語っているところを、無視したり読み飛ばしてはいけません。今朝の箇所もこの奇跡についての記録です。ここで肉体的な回復は霊的な回復(罪の赦し)の象徴です。そして罪がなくなるということ“子よ、あなたの罪はゆるされた(マルコ 2:5)”と一番必要な事そして真実を、救いを待ち望んでいる人々(ここでは彼ら)に語られます。律法学者たちは、身体的な病気をみて、それについて罪の問題を解説しましたが、罪を赦す権威はありませんでした。“この人は、なぜあんなことを言うのか。それは神をけがすことだ。神ひとりのほかに、だれが罪をゆるすことができるか(2:7)”にあるとおりです。律法学者たちの抱く問いを見抜いたイエス様は“中風の者に、あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きよ、床を取りあげて歩け、と言うのと、どちらがたやすいか(2:9)”とまるで私たちに仰るかのように問いかけて下さいます。日常抱えている私たちの困難や悩みは奇跡的に解決されることを待っているように思えます。しかし“あなたの罪は(神によって)赦されました”という宣言の前に、悩みのない、反対に多いに挑戦すべき毎日が待っているのです。

週報

2010年 2月 7日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042